

令和6年度

布 勢 遺 跡

—個人住宅建設事業に係る発掘調査報告書—

2025. 3

鳥取市教育委員会



布勢遺跡調査地近景(北東上空から)



布勢遺跡調査地近景(西上空から)



布勢遺跡調査地全景(西上空から)



布勢遺跡調査地全景(北上空から)

序

本書は、令和6年度に鳥取市教育委員会が実施した布勢遺跡の発掘調査の成果を報告したものです。

布勢遺跡は、湖山池東岸の丘陵部上に位置する国指定文化財布勢古墳の周囲に広がる遺跡で、古くは弥生時代の遺構が確認され、中世には因幡の中心地として大いに栄えた土地であります。

今回の調査でも多くの遺構、遺物が確認されましたが、これらは地域の先人たちの生活を語る歴史資料であり、後世に継承していかなければならない市民の貴重な財産です。文化財保護を推し進めている私共としては、こうした開発と文化財の共存を図るべく関係諸機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

今後も、埋蔵文化財の適切な保護、保存に努めるとともに、その調査成果を速やかに報告、公開することで積極的な情報発信を進めてまいりたいと考えております。本書が私たち郷土の歴史の解明や今後の調査研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、この調査にあたっては、鳥取県地域社会振興部文化財局ととり弥生の王国推進課関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や作業員の方々の熱意により、ようやく調査を終了することができました。ここに深く感謝を申し上げます。

令和7年3月

鳥取市教育委員会
教育長 河 井 登志夫

例 言

1. 本書は、個人住宅建設事業に伴い、令和6年度(2024)に国・県補助を得て、鳥取市教育委員会が実施した布勢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 布勢遺跡の調査地は鳥取県鳥取市布勢342-8に所在し、調査面積は136㎡である。
3. 発掘調査に際しては公益財団法人 鳥取市文化財団の支援を受けた。
4. 遺跡での掘削作業、記録作成、室内の整理作業、報告書作成は鳥取市教育委員会が監理し、公益財団法人 鳥取市文化財団が行った。
5. 本書で示す方位は第1・2図が平面直角座標北を示し、その他は磁北である。
6. 本書で示す標高値はメートル表記である。標高値は東京湾平均海面(T.P)値を使用した。
7. 本書に使用する色調は「新版 標準土色帖」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修)に従って記載した。
8. 発掘調査によって作成された記録類及び出土遺物は鳥取市教育委員会が保管している。

本 文 目 次

巻頭図版

序

例言

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査にいたる経緯……………1

第2節 調査体制……………1

第2章 遺跡の位置と歴史的環境……………2

第3章 調査の成果

第1節 布勢遺跡の概要と現状……………4

第2節 令和6年度の調査……………4

第3節 まとめ……………15

報告書抄録

写真図版

挿 図 目 次

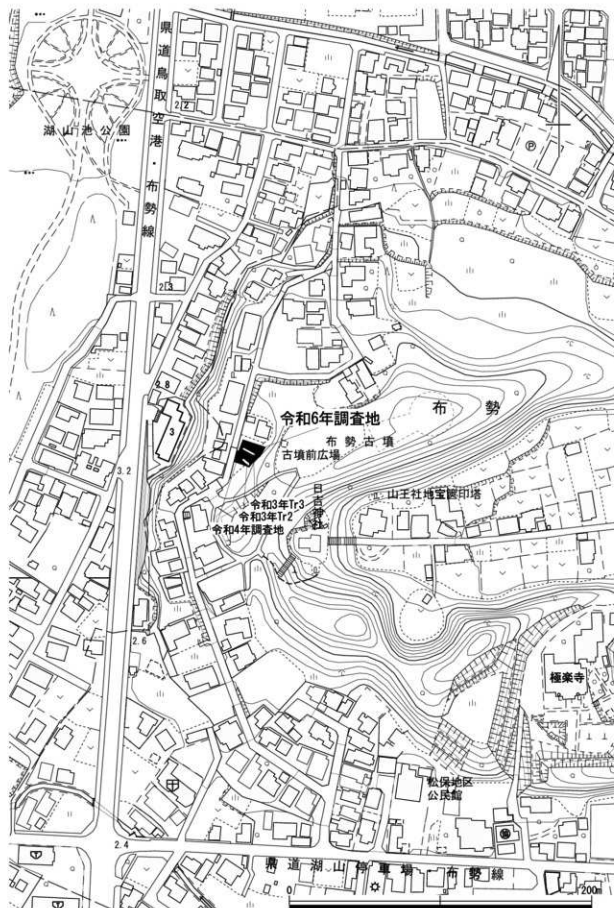
第1図	布勢遺跡調査地位置図……………	第6図	SI-01出土遺物実測図……………9
第2図	布勢遺跡周辺遺跡分布地図……………3	第7図	SK-02・03実測図……………10
第3図	布勢遺跡令和4年度調査区全体図……………4	第8図	SD-05・07出土遺物実測図……………11
第4図	布勢遺跡令和6年度調査区全体図……………5・6	第9図	P-11～40実測図……………12
第5図	布勢遺跡調査区北壁断面図、SI-01、SD-01～06断面図……………7・8	第10図	P-41～58実測図……………13

図 版 目 次

巻頭図版 1	布勢遺跡調査地近景(北東上空から)	P-19断面(南から)
	布勢遺跡調査地近景(西上空から)	図版10
巻頭図版 2	布勢遺跡調査地全景(西上空から)	P-20完掘(南西から)
	布勢遺跡調査地全景(北上空から)	P-21断面(南西から)
図版 1	布勢遺跡調査前状況(東から)	P-22完掘(南西から)
	調査前状況(南西から)	P-23断面(南西から)
	調査区全景(東から)	P-24完掘(南西から)
図版 2	調査区全景(北西から)	P-25完掘(南西から)
	調査区中段(北西から)	P-26断面(南西から)
	調査区北壁断面(南西から)	P-27完掘(南西から)
図版 3	SI-01全景(北東から)	図版11
	SI-01東西断面(北東から)	P-28完掘(南西から)
	SI-01南北断面(南西から)	P-29断面(南西から)
図版 4	SI-01遺物出土状況(南西から)	P-30完掘(南西から)
	SI-01遺物(第6図5)出土状況(南西から)	P-31断面(南西から)
	SI-01遺物(第6図2)出土状況(南西から)	P-33・32完掘(南西から)
図版 5	SK-02完掘(東から)	P-34完掘(南西から)
	SD-01、SK-02断面(北西から)	P-35完掘(南西から)
	SK-03完掘(南西から)	P-36完掘(南西から)
	SK-03断面(南西から)	図版12
図版 6	SD-01・05検出(南西から)	P-37断面(南西から)
	SD-02・03完掘(北東から)	P-38断面(南西から)
	SD-04完掘(南西から)	P-39断面(南西から)
	SD-02断面(南西から)	P-40完掘(南西から)
図版 7	SD-03断面(南西から)	P-41完掘(北東から)
	SD-04断面(北東から)	P-42断面(南西から)
	SD-05断面(南西から)	P-43断面(南西から)
	SD-08断面(南西から)	P-44断面(南西から)
図版 8	P-1完掘(北東から)	図版13
	P-2完掘(北東から)	P-45完掘(南西から)
	P-5完掘(北東から)	P-46断面(南西から)
	P-6完掘(北東から)	P-47断面(南西から)
	P-7完掘(北東から)	P-48完掘(南西から)
	P-8完掘(北東から)	P-49断面(南西から)
	P-9完掘(北から)	P-50断面(南西から)
	P-11完掘(北東から)	P-51断面(南西から)
図版 9	P-12完掘(南西から)	P-52断面(南西から)
	P-13断面(南西から)	図版14
	P-14完掘(南西から)	P-53断面(南東から)
	P-15完掘(南西から)	P-54断面(南西から)
	P-16断面(南から)	P-55断面(南西から)
	P-17断面(北東から)	P-56断面(南西から)
	P-18断面(南から)	P-57断面(南西から)
		P-58断面(南西から)
		調査区南壁面攪乱穴(北東から)
		図版15
		布勢遺跡SI-01出土遺物(1)
		図版16
		布勢遺跡SI-01出土遺物(2)
		布勢遺跡SD-05・07出土遺物

表 目 次

第1表	布勢遺跡検出ビット一覧表	……14
-----	--------------	------



第1図 布勢遺跡調査地位置図(S=1 : 2,500)

第1章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査にいたる経緯

今回の発掘調査は個人住宅建設に伴って実施したものである。開発事業区域は周知の埋蔵文化財包蔵地「布勢遺跡」に該当しており、令和3年度には周辺開発に伴い、同地で試掘調査を実施し、ピットや土城、溝状遺構などを検出、土師器皿や古墳時代前期の土師器片などが出土した。このことから、今回の開発行為に先立ち、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

本事業については、令和5年度に協議を開始、対象が個人住宅の建設であることから、調査費用は公費負担とした。なお、調査費用は4,726,243円である。

伴い令和6年5月14日付で文化財保護法第93条第1項に基づく届出がされると、これを受けて令和6年5月16日付第202400048730で鳥取県知事より発掘調査の通知が発出された。記録保存の現地調査期間は令和6年7月2日から9月6日までである。なお、現地調査から報告書作成までの作業は公益財団法人鳥取市文化財団の支援を受けた。

第2節 調査体制

発掘調査及び報告書作成時の組織体制は以下のとおりである。

調査期間 令和6年7月2日～9月6日

調査面積 136㎡

鳥取市教育長

尾室 高志(～9月)

河井登志夫(10月～)

鳥取市教育委員会事務局文化財課課長

佐々木孝文

課長補佐兼鳥取城整備推進係長兼文化財専門員

加川 崇

保存整備係

主 幹

中山 和之

係長兼文化財専門員

坂田 邦彦

主 事

秋本 恵美、椿 保奈瀬

鳥取城整備推進係 主幹兼文化財専門員

細田 隆博

技 師

岡垣 頼和

会計年度任用職員

長谷 早紀、松本 幸子

鳥取市埋蔵文化財センター 所 長

浅井 俊彦

副 所 長

谷口 恭子(調査担当)

調査事務

川上 麻里

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

布勢遺跡は鳥取市布勢に所在する。日本海沿岸の砂丘地後背に形成された潟湖である湖山池(周囲17.5km)の東沿岸にはそれぞれ独立丘陵である卯山(標高30m)と天神山(標高25m)がそびえる。布勢遺跡は湖山池を見下ろす卯山の北西および北側緩斜面に広がる遺跡である。布勢遺跡から西側に見下ろす湖山池の沿岸域を中心に分布し、各時代の様々な遺跡が展開する。

【縄文時代】古くは旧石器～縄文時代草創期の可能性のある有茎尖頭器が大柄遺跡で見つかっている。続く縄文時代早期前葉の遺物が高住井出添遺跡、前期中葉の高住平田遺跡、前期末の良田中道遺跡、桂見遺跡、東桂見遺跡などで出土し、湖山池南岸地域で多くの縄文遺跡が展開する。中期以降、東岸の天神山遺跡、湖山第2遺跡、後期に入ると青島遺跡、桂見遺跡、布勢第1遺跡など遺跡数が増加する。布勢第1遺跡では漆塗の壺や腕輪、桂見遺跡では外洋交易用と内海用の丸木舟が出土している。

【弥生時代】縄文時代晩期と弥生時代前期の土器の共伴が桂見遺跡、大柄遺跡などで知られており、湖山第1遺跡では晩期突帯文土器と弥生時代前期後葉、中期・後期の土器が出土している。中期後半になると湖山第2遺跡や布勢第2遺跡の堅穴建物などの調査例があり、段丘状の微高地に立地する遺跡が目立ち始める。後期に入ると帆城遺跡をはじめ飛躍的に遺跡数が増加、各遺跡内の住居数も増し、古墳時代へ続く傾向がある。拠点集落である松原田中遺跡では水田と碧玉製玉作り工房等が、高住牛輪谷遺跡や高住井出添遺跡では中期の大規模な木組み堰や護岸が調査されている。祭祀遺跡として青島遺跡、塞ノ谷遺跡、高住宮ノ谷は流水文銅鐸出土推定地である。弥生墳墓としてガラス玉・鉄製品をもつ後期前半の松原1号墓、後期中葉の布勢鶴指奥1号墓、後期後葉に遡40m規模の西桂見墳丘墓、桂見墳丘墓、終末期の里仁1～3号墓が築造される。

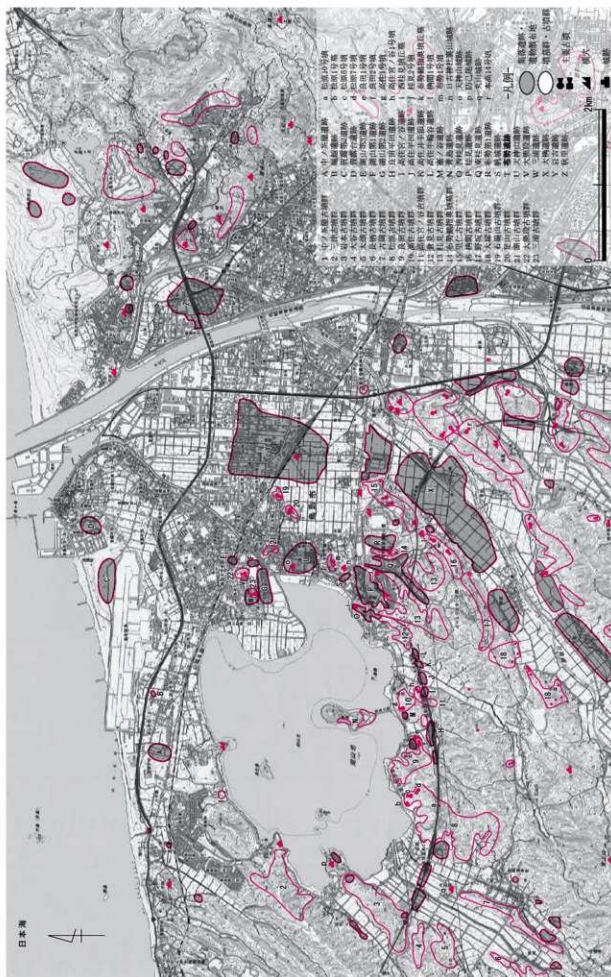
【古墳時代】古墳時代に入り、墳丘規模や長大な木棺から舶載鏡の出土など卓越した規模・内容の桂見2号墳が出現する。この他に湖山池沿岸丘陵に弥生墳墓の系譜を引く小規模な方墳が、その後次第に円墳が築造されるようになる。前方後円墳として前期中葉の本高14号墳(全長63m)、中期とされる里仁29号墳(全長85m)、県内最大規模の橿間1号墳(全長110m)等が点在する。後期になると卯山に布勢1号墳(全長60m)、桂見6号墳(全長24.5m)、澁山丘陵に大熊段1号墳、三浦1号墳とやや小規模な前方後円墳が築かれる。横穴式石室はやや導入が遅れ、6世紀中葉の葦岡長者古墳、後葉の倉見9号墳、高住12号墳等の調査例がある。高住牛輪谷遺跡では切妻造の家形陶棺片が出土、終末期古墳として7世紀中頃の山ヶ鼻古墳、松原1号横穴墓等がある。集落は湖山第2遺跡など弥生時代から続く遺跡が多く、西桂見遺跡では古墳築造期になると集落が丘陵上から斜面へと下る傾向があり、丘陵裾の現集落と一部重複する立地と考えられている。

【歴史時代】7世紀後半、千代川左岸一帯に高草評が立評され、律令体制下、因幡国高草郡に属する。7世紀後半創建の菰蒲廃寺跡などから郡衙は古海・菰蒲付近に置かれたと推定されている。湖山池南岸は古代山陰道の敷設周辺域であり、桂見遺跡堤谷地区、良田平田遺跡、吉岡大海廃寺ほか、官衙や寺院関連遺跡の発見が相次いでいる。天平勝宝8(756)年東大寺領高庭荘が成立、11世紀前半頃までその影響が及ぶ。南北朝動乱後の貞治3(1364)年室町幕府より因幡守護に任じられた山名時氏は、卯山に日吉神社を建立したとされ、文正元(1466)年山名勝豊が布施天神山城を築き守護所とした。鳥取城へ移るまでの100年余り、天神山と卯山周辺は因幡の政治・軍事・商業の中心として栄えた。17世紀に描かれた古絵図のとおり、天神山周辺では内堀や土塁の他、井戸や焼け落ちた建物跡、周縁丘陵の布勢鶴指奥墳墓群や桂見墳墓群では中世墓が調査されている。

(引用・主要参考文献)

平凡社『日本歴史地名大系第32巻 鳥取県の地名』1992年

鳥取市教育委員会『布勢遺跡一帯個人住宅建設事業に係る発掘調査報告書』鳥取市文化財調査報告書 第34集 2023年



第2圖 布勢道路網切通斷分布圖

第3章 調査の成果

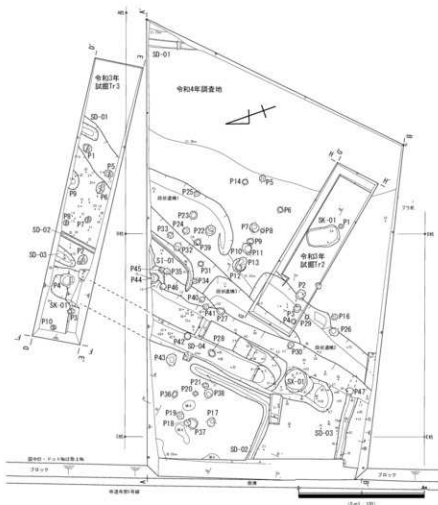
第1節 布勢遺跡の概要と現状(第1・2～5図、巻頭図版1・2、図版1)

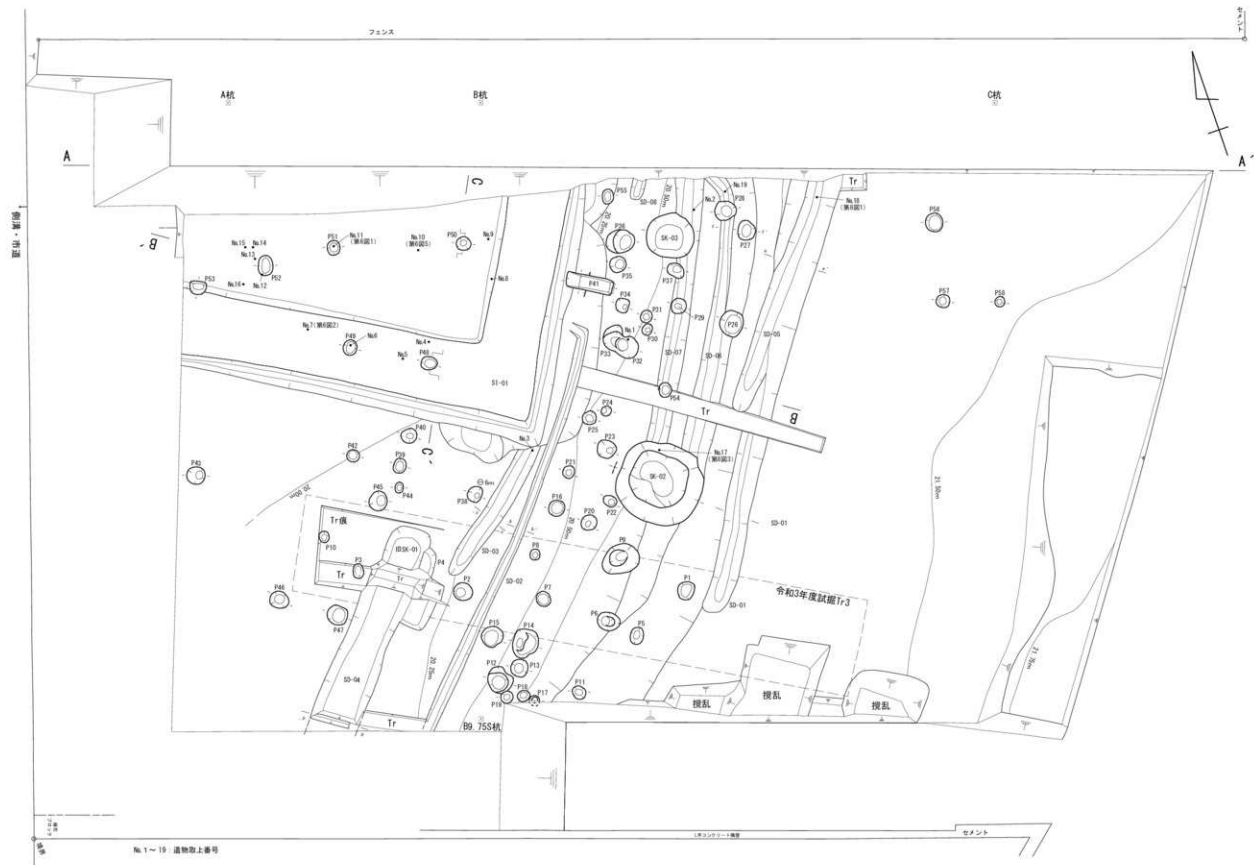
布勢遺跡は鳥取市布勢に所在する。湖山池東岸にそびえる卯山(標高30m)の頂部を占地する国史跡布勢古墳(布勢1号墳:全長60m前方後円墳・6世紀前半築造)の西～北側および北東縁辺に展開する集落遺跡である。布勢古墳の西側周辺では住宅開発がすすみ、数度の小規模な発掘調査が行われている。これまでの調査で、弥生時代後期の溝状遺構や古墳時代前期の竪穴建物、中期や後期の土坑や段状遺構、古代から奈良時代、平安時代、中世の土坑やピット状遺構、縄文土器なども出土している。また、布勢遺跡が所在する卯山の北側には、守護所が置かれた天神山(標高25m)とその周辺に天神山遺跡が広がる。布勢遺跡の北側でも中世後期の京都系土師器皿や貿易陶磁器などが出土している。

今回の調査地は令和4年度調査地の北側隣接地であり、北東崖上には古墳前広場の東屋が所在する。調査地は以前、市道際に壁面養生ブロックが施された平坦な畑地であったが、現状はブロックが除去され、東側は1.2m程高い平坦面となり一部真砂土などの盛土で養生されていた。

第2節 令和6年度の調査(第1・3～6図、図版1・2・9)

調査地の土層観察は北側敷地境界と2m離れた北壁面A-A'を用い、地形傾斜が判明した時点でB-B'断面を援用した。調査区東側上段の一部は上層を削平されて地山ローム層が露出しており、南側についても重機バケット痕など攪乱が認められた。北壁断面は第10～13層が令和4年度北壁第10～12層に対応し、焼土塊を含む炭化層第15・16層が今回認められた。第23層まで土師器底部系切り坯が出土し、概ね

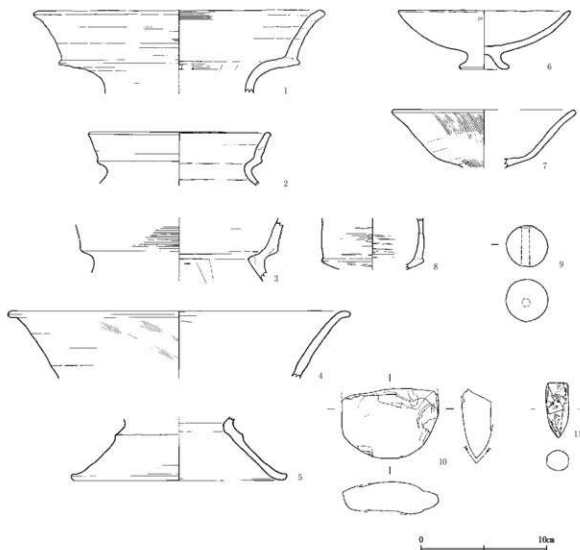




11・12世紀代、第28層以下は古墳時代前期土器が含まれる。検出した遺構は令和3年度試掘Tr3調査分を含め(遺構番号はTr3から続く)、竪穴建物1棟、土坑2基、溝状遺構8条、ピット58基である。

1. 竪穴建物 SI-01(第4～6図、巻頭図版1・2、図版1～4)

調査区下段北西端で地山ロー層を掘り込む竪穴建物SI-01を検出した。北西側は調査区外へ広がるが、遺存する南東側より平面方形もしくは長方形と考えられ、東西辺6.26m、南北4.10mを測る。壁面の周囲は幅92～98cmの平坦面をもち、さらに24cmほどの段差をとって下段底面へ続く。北壁面より東壁は標高20.0mまでの立ち上がりを確認、壁際平坦面まで壁高31cm、壁溝は深さ22cmを測る。底面の標高は19.41～19.28mと西側へ緩やかに下る。底面ではP-48～P-53を検出したが上層からの掘り込みか浅いものが多く、主柱穴とみられるピットは検出されなかった。第28層以下は古墳時代前期の遺物が多く含まれ、コンテナ約3箱分が出土している。全体的に土壌化した脆弱な個体が多い。SI-01床面近くで出土した取上Na4～16はいずれも古墳時代前期の遺物で、Na4～9は第35層、Na10・11は第34層もしくは第55層、Na12～16層は第55層の出土である。このうち取上Na7・10・11を図化(第6図2・5・1)した。(第6図3・4・8・9・11)は断面B-B'およびC-C'ラインから北西区の第33層もしくは第34層から、(6・7)は北東区の第35層、(10)は南西区の出土である。広口壺の口縁部(1)は復元口径22.0cm、取上Na6・15と良く似た形状である。口縁端部はやや丸味のある平坦面をもち、口縁下端の稜は摘み出される。内面頸部上位に横ハケ目を観察、口縁部内外ヨコナデ調整でハケ状の条痕が観察される。甕の

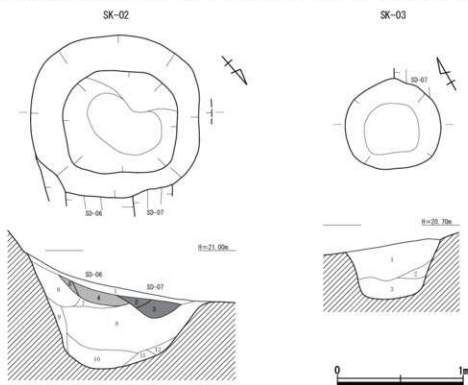


第6図 SI-01出土遺物実測図

口縁部(2)は復元口径13.8cm、複合口縁の立ち上がり短めで端部は丸味をもち口縁下端の稜は鈍い。口縁部内外ヨコナデ調整、外面下位に横ハケ目状の条痕が観察される。なお、取上No.4は(2)よりやや大振りな口縁で底部近くまで遺存するが、脆弱なため復元はかなわなかった。甕の口縁部(3)は約1/12の遺存で口縁部内面～外面頸部にかけて赤彩が認められる。口縁部残存部に撫描平行沈線を施す。鼓形器台の受部(4)は復元口径25.8cm、比較的大形である。内面横方向の幅広のヘラ磨き、外面は風化が進むがヨコナデ調整前の斜めハケ目が観察される。鼓形器台の脚台部(5)は底径16.4cm、風化剥落がすみ調整不明瞭ながら一部外面にヘラ磨きを観察する。低脚杯(6)は口径13.1cm、底径3.5cmを測る。脆弱で剥落すすむが外面杯部の一部にヘラ磨きを観察する。高杯の坏部(7)は復元口径14.0cmを測る。外面は縦ハケ目後ナデ、内面はヘラ磨きとみられるが暗文状の磨きは認められない。体部(8)は精緻な胎土で精製、橙色の色調、内外面横位の密なヘラ磨き調整、周辺では見かけない器形である。土玉(9)は外径3.3cm、貫通する内径6mmの孔が中央にある。磨製石斧(10)は刃部やや上位から上部を欠損し、刃部は厚さ2.5cmの扁平な体部からほぼ均等に刃部を研ぎ出す。重量143.113gを測る。軽石製の栓もしくは鉋身状の(11)は径1.7cm、遺存長4.3cmを測り、先端は尖り状となる。

2. 土坑 SK-02・03(第4～6図、巻頭図版1・2、図版1～4)

調査区中段で土坑2基、SK-02・03を検出した。SK-01は試掘Tr3で検出した後、SD-04の北端部と判明し欠番とした。SK-02は中段の中央部、標高20.92mで検出した。長軸144cm、短軸128cmの平面隅丸形状を呈し、検出面から深さ85cmを測る。地山を深く掘り込んでおり、断面は碗状で東側の壁面の立ち上がりは急傾斜である。埋土は第6～12層に分かれる。上層にSD-06・07が重なることから、上層



- SK-02
- 1 灰褐色シルト 10YR5/2 10.3cmの灰褐色土ブロックを含む。
 - 2 灰褐色シルト 10YR5/2 10.3cmの灰褐色土ブロックを含む。SD-07埋土。
 - 3 灰褐色シルト 10YR5/2 12.5cmの灰褐色土ブロックを含む。SD-07埋土。
 - 4 灰褐色シルト 10YR5/2 10.3cmの灰褐色土ブロックを含む。横溝に埋土を含む。SD-06埋土。
 - 5 灰褐色シルト 10YR5/2 14.5cmの灰褐色土ブロックを含む。D-06埋土。
 - 6 灰褐色シルト 10YR5/2 10.3cmの灰褐色土ブロックを含む。やや細まり傾い。
 - 7 土に灰褐色シルト 10YR5/2 埋れた灰褐色土ブロックを含む。細まり傾い。
 - 8 土に灰褐色シルト 10YR5/2 埋れた灰褐色土ブロックを多く含む。細まり傾い。
 - 9 灰褐色シルト 10YR5/2 10.3cmの灰褐色土ブロックを含む。やや細まり傾い。
 - 10 灰褐色シルト 10YR5/2 19.2cmで転覆。底面を含む。
 - 11 土に灰褐色シルト 10YR5/2 埋れた灰褐色土ブロックを含む。
 - 12 土に灰褐色シルト 10YR5/2 11.5cmで転覆する。

- SK-03
- 1 灰褐色シルト 10YR5/2 10.3～10.5cmの灰褐色土ブロックを含む。底面を含む。
 - 2 灰褐色シルト 10YR5/2 11.5cmの灰褐色土ブロックを多く含む細まり傾い。
 - 3 土に灰褐色シルト 10YR5/2 埋れた灰褐色土ブロックを多く含む。底面を含む。

第7図 SK-02・03実測図(S=1:30)

で糸切り底部など土師器片が出土している。SK-03は、中段の北壁寄り、標高20.59mで検出した。長軸76cm、短軸71cmのやや角張る楕円形を呈し、検出面から深さ46cmを測る。地山を深く掘り込んでおり、断面は逆台形に近い碗状である。埋土は第3層に分かれる。遺物は底部糸切り土師器片など土師器片10点程が出土している。SD-07と重なるが断面状況からSD-07より後出の可能性はある。

3. 溝状遺構 SD-01～08(第4・5・8図、巻頭図版1・2、図版2・5～7・16)

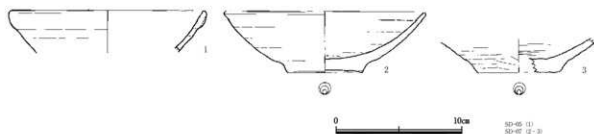
調査区中段で溝状遺構8条、SD-01～08を検出した。SD-01は上段東端、試掘Tr3で南端を検出しており、斜面の傾斜に対し直交気味のN-25°-Eへ軸をとり中程でSD-05と重なる。幅42cm、深さ4cmを測る。SD-05は北壁面よりSD-01の下位下層にあたるとみられ、第22層上面で玉縁の白磁碗(第8図1:取上Na18)が出土している。SD-02は中段下位の標高20.41mで検出、試掘Tr3でも確認されていた溝である。南側は調査区外へ、北側はL字状に屈曲して終える。幅15cm程度に対し深さ15cmと断面U字形のしっかりした掘方で検出長6.85mを測る。SI-01の壁溝に類似し、あるいはSI-01と同様な建物が存在した可能性も考えられる。SD-03はSD-02の下位に位置し、幅30cm、断面碗状で深さ16cmを測る。SI-01南東壁まで続く。遺物は古墳時代前期甕口縁部片などが僅かに出土している。SD-04は今回の調査で、令和4年度調査地のSD-04の延長部を確認すると共に試掘Tr3のSK-01が北側の終結であることが明らかとなった。長さ5.20m、幅76cm、断面U字形で深さ69cmを測る。主軸はN-40°-Eに振る。底面は令和4年度調査地を含め19.42m前後とはほぼ一定の高さを保つ。令和4年度出土土器と同様な弥生時代後期後半の甕口縁部片と土器細片数点が出土している。SD-06とSD-07は、SD-01・05の下位に配置し、北壁断面やSK-02断面からSD-07がSD-06より新しい。SD-06は北壁付近で緩やかに西側へ湾曲、SD-06・07北側は調査区外へ広がりSK-02以南については明確にできなかった。現状でSD-06は幅32cm、深さ30cm、SD-07は幅28cm、深さ22cmである。SK-02上層のSD-07から糸切り底部の土師器坏(第8図2)(3:取上Na17)が出土している。(2)は復元口径15.6cm、器高4.5cmを測り(3)と同様に内外ヨコナデ調整。SD-08は中段やや下位の北壁際で検出しており、幅28cm、深さ32cmを測る。

4. ビット状遺構 P-1～47(第4・5・9・10図、巻頭図版1・2、図版2・10～14)

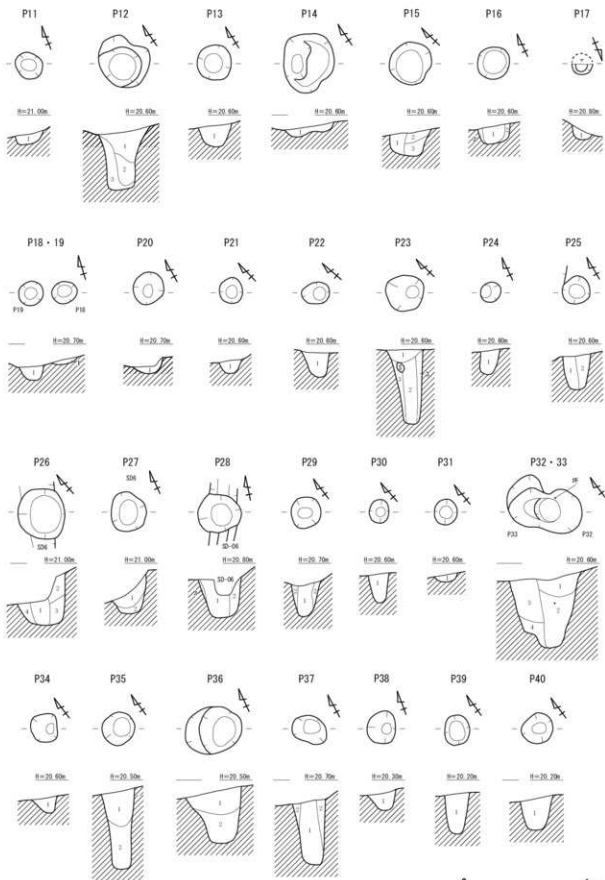
調査区上段で3基、中段で36基、下段で19基、計58基のビットを検出した。SI-01内で検出したビット6基についても一覧表(第1表)に含めている。深さが10cmに満たない小規模なビットは10基、深さ10cm代が19基、20cm代が10基、30cm以上は19基、60cm以上はP-04・32・33・35・45・54がある。P-71については通常のビットとは形状が異なり、令和4年度P-47のような建物に付随した何らかの機能をもつ遺構と考えられる。

5. 出土遺物(第4・6・8図、図版4・5・16)

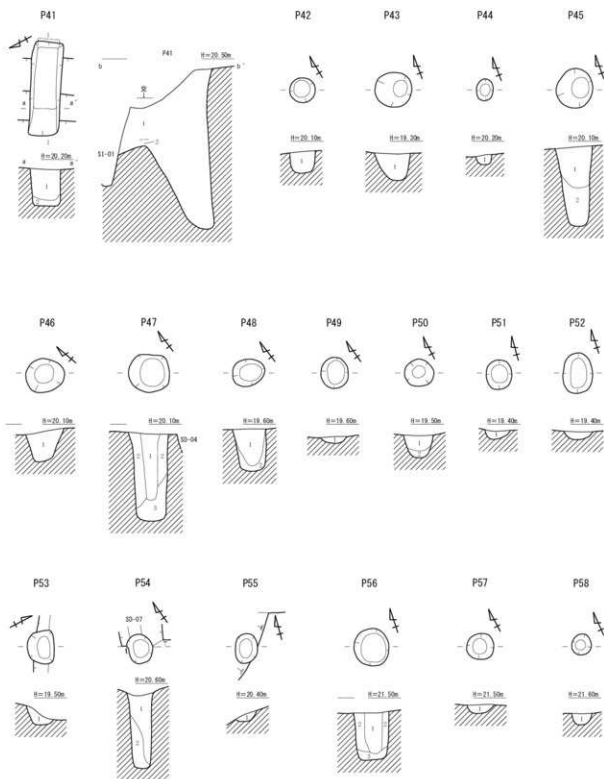
出土した遺物は、コンテナ(容量54×34×20cm)約4箱分である。弥生土器、土師器、須恵器、白磁、土玉、磨製石斧、軽石製栓などがある。遺物の大部分はSI-01およびSI-01上層で出土した古墳時代前期の遺物でコンテナ約3箱分、次いで糸切り底部の坏や土師器体部片、須恵器については坏蓋天井部片や体部片など7点である。SI-01出土(第6図1～11)、SD-05・07出土(第8図1～3)の図化を行った。P-32第2層出土Na1(第9図)は土師器底部糸切り坏である。京都系土師皿や瓦質土器は出土していない。



第8図 SD-05・07出土遺物実測図



第9图 P-11~40实测图(S=1:30)



第10图 P-41~58实测图(S=1:30)

第1表 布勢遺跡検出ビット一覧表

調査区	遺構名	法量 (cm) 長 幅	深さ	底面標高 (m)	層 土	出土遺物	備 考
令和3年 調査区T3	P-01	30	8	21.17	1 灰黄褐色粘質土10YR4/2(やや締まる。)	—	
	P-02	31	33	20.00	1 灰黄褐色粘質土10YR4/2(泥片を僅かに含む。締まる。)	土師器片	
					2 灰黄褐色粘質土10YR4/2(1よりやや明。0.3cm大の黄褐色土ブロックを含む。)		
					3 灰黄褐色粘質土10YR4/2(2より黄褐色土ブロックの含み多い。)		
					4 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3(0.3-1cm大の明黄褐色土ブロックを含む。締まりやや弱い。)		
	P-03	23	10	19.92	1 褐色粘質土(やや褐色かかる。0.3cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-04	45	62	19.60	1 灰黄褐色粘質土10YR4/2(0.3-0.5cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。締まり弱い。)	丸底部片	
					2 灰黄褐色粘質土10YR4/2(1-3cm大の黄褐色土ブロックを含む。締まり弱い。)		
					3 灰黄褐色粘質土10YR4/2(1・2より灰色かなり暗。1より1cm大のブロックを密に含む。締まる。)		
	P-05	29	12	20.86	1 黄褐色粘質土10YR5/6(灰黄褐色土を含む。)	—	
令和6年 調査地	P-06	39	22	20.88	1 黄褐色粘質土10YR5/6(灰黄褐色土を含む。)	—	
	P-07	23	14	20.37	1 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3(黄褐色土混じり。)	土師器細片	
	P-08	18	13	20.25	1 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3(0.3cm大の明黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-09	18	13	19.93	18 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3(粘質土。泥片を含む。褐色土の含み多い。)	土師器片	
	P-10	18	13	19.93	19 黄褐色粘質土10YR5/6(18より明黄褐色土ブロックの含み多く締まり弱い。)	土師器片	
					1 褐色粘質土10YR4/1(0.3cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。締まる。)		
	P-11	23	11	20.77	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.5-2cm大の黄褐色土ブロックを若干含む。)	—	
	P-12	43	50	20.01	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.5cm前後の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
					2 黒褐色シルト10YR3/2(黄褐色土ブロックを1より多く含む。)		
					3 黒褐色シルト10YR3/2(2よりやや明で締まる。崩れた黄褐色土ブロックを多く含む。)		
	P-13	28	19	20.35	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.5cm前後の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-14	48	12	20.42	1 黒褐色シルト10YR3/2(崩れた黄褐色土ブロックを多く含む。)	—	
	P-15	34	22	20.27	1 黒褐色シルト10YR3/2(泥片を含む。)	—	
					2 黒褐色シルト10YR3/2(崩れた黄褐色土ブロックを含む。)		
					3 黒褐色シルト10YR3/2(2よりブロックの含み多く泥片を含む。)		
	P-16	26	16	20.37	1 黒褐色シルト10YR3/2(泥片を含む。)	—	
					2 黒褐色シルト10YR3/2(0.3cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。)		
	P-17	17	12	20.60	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-18	20	12	20.41	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.3cm大の黄褐色土ブロックを均一に含む。)	—	
	P-19	21	6	20.54	1 黒褐色シルト10YR3/2(僅かに0.3cm大の黄褐色土ブロックを含む。泥片を含む。)	—	
	P-20	26	13	20.46	1 にぶい黄褐色シルト10YR5/3(1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-21	20	11	20.37	1 にぶい黄褐色シルト10YR5/3(0.3cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-22	23	20	20.34	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1-2cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	土師器細片	
	P-23	30	39	19.97	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(崩れた黄褐色土ブロックを含む。)	土師器部片	
					2 黒褐色シルト10YR3/2(泥片を含む。0.3cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。)		
					3 にぶい黄褐色シルト10YR5/4(崩れた黄褐色土ブロック。締まる。)		
	P-24	17	20	20.36	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.3cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。)	—	
	P-25	23	28	20.24	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
					2 にぶい黄褐色シルト10YR5/4(崩れた黄褐色土ブロックを密に含む。締まる。)		
	P-26	40	41	20.51	1 黒褐色シルト10YR3/2(僅かに崩れた黄褐色土ブロックを含む。)	—	
					2 黒褐色シルト10YR3/2(1より黄褐色土ブロックの含み多く締まる。)		
					3 黒褐色シルト10YR3/2(2より黄褐色土ブロックを密に含む。締まる。)		
					4 黒褐色シルト10YR3/2(2に似る。泥片を含む。)		
	P-27	31	32	20.60	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(0.3-1.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-28	35	33	20.37	2 灰黄褐色シルト10YR4/2(1より明で黄褐色土ブロックの含み多い。)	土師器細片	
	P-29	25	28	20.28	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1cm前後の黄褐色土ブロックを含む。)		
					2 灰黄褐色シルト10YR4/2(1より黄褐色土ブロックの含み多く締まる。)		
					3 灰黄褐色シルト10YR4/2(2より若干暗。締まる。)		
	P-30	18	25	20.28	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(泥片を含む。1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-31	21	7	20.45	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(崩れた黄褐色土ブロックを若干含む。)	—	
	P-32	60	60	19.93	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.1-4cm大の黄褐色土ブロックを含む。泥片を含む。)	土師器片	
					2 黒褐色シルト10YR3/2(崩れた黄褐色土ブロックを1より多く含む。)		
					3 灰黄褐色シルト10YR4/2(崩れた黄褐色土ブロックを多く含む。よく混ざる。)		
					4 灰黄褐色シルト10YR4/2(3より明で黄褐色土ブロックの混ざり多い。)		
	P-34	23	14	20.34	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.3cm大の黄褐色土ブロックを均一に含む。泥片を含む。)	土師器片	
	P-35	26	65	19.79	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(僅かに0.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。泥片を含む。)	—	
	P-36	36	45	20.00	2 灰黄褐色シルト10YR4/2(1より暗で黄褐色土ブロックの含み少。)	土師器片	
	P-37	28	52	20.03	1 黒褐色シルト10YR3/2(僅かに1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)		
	P-38	26	17	20.06	2 黒褐色シルト10YR3/2(1より明で黄褐色土ブロックの含み多い。締まる。)	—	
	P-39	23	33	19.77	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(泥片を含む。0.5-1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-40	25	28	19.80	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(泥片を含む。僅かに0.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-41	75	127	19.15	1 にぶい黄褐色シルト10YR5/4(1cm大の黒褐色土ブロックを多く均一に含む。)	—	
					2 にぶい黄褐色シルト10YR4/3(1より暗で締まる。)		

調査区	遺構名	法長 (cm) 長さ	法幅 (cm) 幅	底面標高 (m)	層 土	出土遺物	備 考
令和6年 調査地	P-42	20	18	19.85	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-43	29	21	18.99	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-44	17	8	20.01	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.3cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-45	30	64	19.43	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(0.3~0.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	土師器片	
	P-46	31	27	19.80	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(皮片を含む。0.3cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。)	土師器細片	
	P-47	32	70	19.33	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(0.5~1cm大の黄褐色土ブロックを多く含む。)	—	
	P-48	26	34	19.23	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1より明で黄褐色土ブロックを密に多く含む。)	—	
	P-49	24	6	19.45	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1より明で黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-50	23	18	19.23	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(皮片を含む。僅かに0.5cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	土師器細片	
	P-51	23	8	19.28	2 灰黄褐色シルト10YR4/2(黄褐色土ブロックを密に含む。)	—	
	P-52	32	7	19.28	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(皮片を含む。0.3cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-53	26	15	19.28	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1cm大の黄褐色土ブロックを含む。)	—	
	P-54	23	61	19.93	1 じょう黄褐色シルト10YR3/2(黄褐色土ブロックを密に含む。)	—	
	P-55	23	7	20.23	1 黒褐色シルト10YR3/2(0.3cm大の黄褐色土ブロックを僅かに含む。)	—	
	P-56	29	39	21.01	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(皮片を含む。1より黄褐色土ブロックの含有分が多くなる。)	—	
	P-57	21	7	21.38	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(1より明で黄褐色土ブロックを多く含む。)	—	
	P-58	17	9	21.39	1 灰黄褐色シルト10YR4/2(皮片を含む。黄褐色土ブロックを含む。)	—	

第3節 まとめ

今回報告した布勢遺跡令和6年度調査地は、布勢遺跡の南西部、卯山の北西緩斜面に広がる標高21.3m前後の畑地である。令和4年度調査地の北側隣接地である。令和3年度試掘Tr3調査分を含め、堅穴建物1棟、土坑2基、溝状遺構8条、ピット58基を検出した。幅5m余りの上段平坦部では3基のピットが検出されたが、令和4年度調査のような平安期のピットの広がりとは認められず、同じく下段への段差1.2mものL字状の地山加工も確認されなかった。今回、上段から下段へは緩やかな中段を経るがその中段には底部糸切り土師器片を出土する断面碗状のSD-01・05~07が斜面傾斜に対し直交方向に掘り込まれ、その下位にピットが配置する。下段は古墳時代前期のSI-01が地山ローム層を掘り込み6m幅以上の平坦面を造成している。SI-01については壁際に棚状施設をもちP-41についてはSI-01の付随する可能性も考えられる。またSD-02については形状がSI-01の壁面に類似することから同様の建物であった可能性もある。遺物出土量からも標高20m前後において古墳時代前期後半期の居住域であったと考えられる。今回SD-04が長さ5.20m、幅76cm、深さ69cmの完結する溝と確定し、弥生時代後期後葉以外に新しい時期の遺物の出土はない。ただ他に弥生時代の遺構は確認されず、この遺構の性格についても今後の課題である。

布勢遺跡を中心とする卯山周辺地域では、南西裾部に展開する帆城遺跡を含め、小規模な範囲の調査ながら少しずつ調査成果が得られている¹⁰⁾。特に天神山を望む北側地域では守護所が置かれた時期と重なる15~16世紀代の遺構が見つかった。従来、天神山城築城以前の卯山一帯は湖山池の水運を背景として宗教・商業地として栄えた地域とされている。今回の調査においても11・12世紀代の集落にかかわる遺構が確認され、それを裏付ける結果となった。また、弥生時代の集落本体については未確認ながらも、弥生時代~近世初めと場所を移しながら展開した様子が窺える。湖山池への眺望の良さなどから今後も開発が予想される地域であり注視していく必要がある。

註(1) 布勢遺跡の既往調査で刊行された報告書として以下がある。

鳥取県教育委員会「平成18(2006)年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書」2007年

鳥取県教育委員会「平成31(2019)年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書」鳥取市文化財報告書第29集 2020年

鳥取県教育委員会「令和3(2021)年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書—布勢遺跡」鳥取市文化財報告書第32集 2022年

鳥取県教育委員会「布勢遺跡—個人住宅建設事業に係る発掘調査報告書」鳥取市文化財報告書第34集 2023年

報 告 書 抄 録

ふ り が な	れいむ ねんど ふせいでき							
書 名	令和6年度 布勢遺跡							
副 書 名	個人住宅建設事業に係る発掘調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	鳥取市文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第40集							
編 著 者 名								
編 集 機 関	鳥取市教育委員会							
所 在 地	〒680-8571 鳥取県鳥取市幸町71番地 TEL(0857)30-8421							
発 行 年 月 日	西暦2025年(令和7年)3月24日							
所 収 遺 跡 名	所 在 地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
布 勢 遺 跡	鳥取市 布勢 342-8	31201	1-326	35° 30' 17"	134° 10' 33"	20240702 ～ 20240906	136	個人住宅建設
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項
布 勢 遺 跡	集 落	弥生時代後期 古墳時代前期 平安時代後期		竪穴建物 土坑 溝状遺構 ピット		土師器 須恵器、白磁 弥生土器、土玉 石斧		・湖山池を見下す 古墳時代前期、 平安時代後期の 集落。
要 約	布勢遺跡は鳥取市布勢に所在する。湖山池東岸にそびえる卯山(標高30m)に立地する国史跡布勢古墳(全長60m前方後円墳)の北西から北側斜面に展開する古墳時代前期、後期から奈良期、平安時代後期を中心とする遺跡である。近年では弥生時代後期や16世紀前半代の遺構や遺物出土の報告も見受けられる。 今回の調査地は遺跡の南西域にあたり、南隣接地の調査を令和4年度に実施している。今回の調査で、辺6m以上の竪穴建物状遺構、段状遺構の一部ともみられる溝状遺構、令和4年度の続きの溝状遺構、土坑2基、ピット58基を検出した。調査区の東側約1/3は時期は不明ながら平坦に削平されており、西側に堆積した包含層からは11・12世紀代の底部糸切り土師器や鍋口縁部片などが出土、下層には古墳時代前期後半期の遺物を含む。斜面を段状に加工して平坦面を確保し傾斜に対し直交方向の溝状遺構を設けるなどして集落を営んでいたとみられるが、遺構の重複状況から新しい時期ほど斜面上位を利用する傾向が窺える。							

布勢遺跡
調査前状況(東から)



調査前状況(南西から)



調査区全景(東から)



図版 2



調査区全景(北西から)



調査区中段(北西から)



調査区北壁断面(南西から)



SI-01全景(北東から)



SI-01東西断面(北東から)

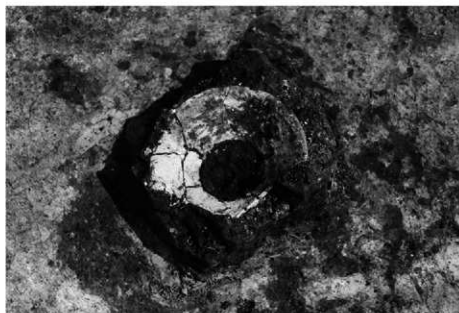


SI-01南北断面(南西から)

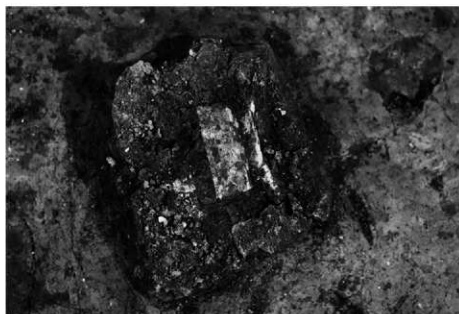
図版 4



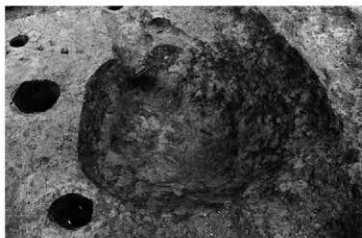
SI-01遺物出土状況
(南西から)



SI-01遺物(第6図5)
出土状況(南西から)



SI-01遺物(第6図2)
出土状況(南西から)



SK-02完掘(東から)



SD-01、SK-02断面(北西から)



SK-03完掘(南西から)



SK-03断面(南西から)

図版 6



SD-01・05検出(南西から)



SD-02・03完掘(北東から)



SD-04完掘(南西から)



SD-02断面(南西から)

SD-03断面(南西から)



SD-04断面(北東から)



SD-05断面(南西から)



SD-08断面(南西から)



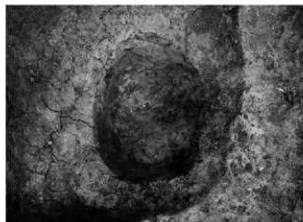
図版 8



P-1完掘(北東から)



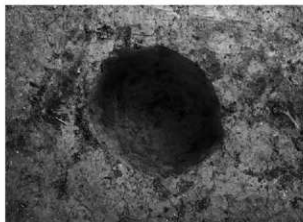
P-2完掘(北東から)



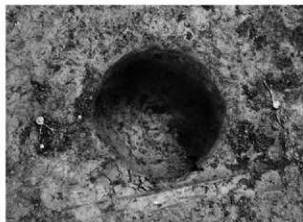
P-5完掘(北東から)



P-6完掘(北東から)



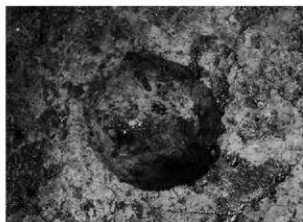
P-7完掘(北東から)



P-8完掘(北東から)



P-9完掘(北から)



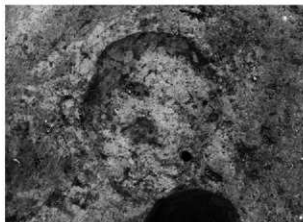
P-11完掘(北東から)



P-12完掘(南西から)



P-13断面(南西から)



P-14完掘(南西から)



P-15完掘(南西から)



P-16断面(南から)



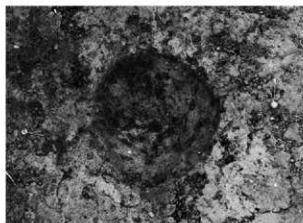
P-17断面(北東から)



P-18断面(南から)



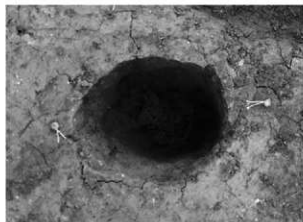
P-19断面(南から)



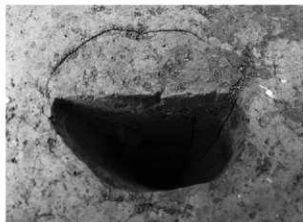
P-20完掘(南西から)



P-21断面(南西から)



P-22完掘(南西から)



P-23断面(南西から)



P-24完掘(南西から)



P-25完掘(南西から)



P-26断面(南西から)



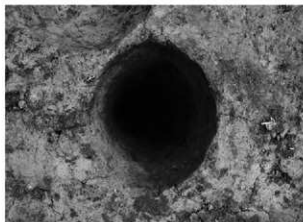
P-27完掘(南西から)



P-28完掘(南西から)



P-29断面(南西から)



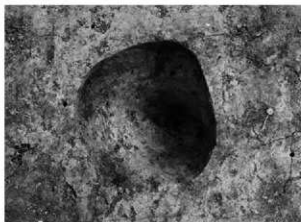
P-30完掘(南西から)



P-31断面(南西から)



P-33・32完掘(南西から)



P-34完掘(南西から)



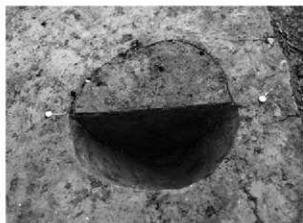
P-35完掘(南西から)



P-36完掘(南西から)



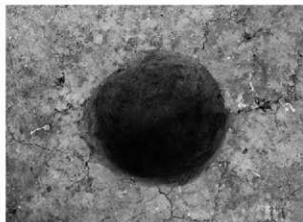
P-37断面(南西から)



P-38断面(南西から)



P-39断面(南西から)



P-40完掘(南西から)



P-41完掘(北東から)



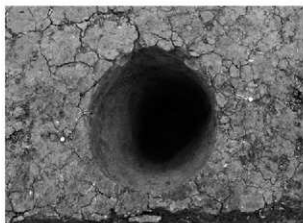
P-42断面(南西から)



P-43断面(南西から)



P-44断面(南西から)



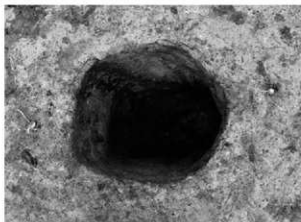
P-45完掘(南西から)



P-46断面(南西から)



P-47断面(南西から)



P-48完掘(南西から)



P-49断面(南西から)



P-50断面(南西から)



P-51断面(南西から)



P-52断面(南西から)



P-53断面(南東から)



P-54断面(南西から)



P-55断面(南西から)



P-56断面(南西から)



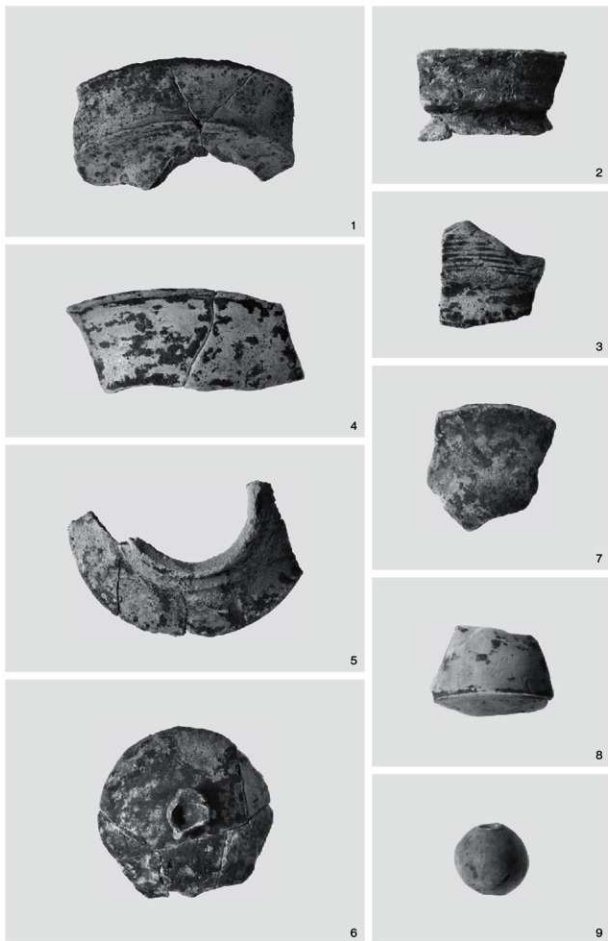
P-57断面(南西から)



P-58断面(南西から)



調査区南壁面掘乱穴(北東から)



布勢遺跡SI-01出土遺物(1)



10



11

布勢遺跡SI-01出土遺物(2)



2



1



3

布勢遺跡SD-05・07出土遺物

令和6年度 布勢遺跡

—個人住宅建設事業に係る発掘調査報告書—

令和7年3月24日 印刷・発行

編集・発行 鳥取市教育委員会

印刷所 勝美印刷株式会社
